

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-204547

(P2001-204547A)

(43)公開日 平成13年7月31日(2001.7.31)

(51)Int.Cl.

A 45 F 3/04

識別記号

F I

A 45 F 3/04

テマコト(参考)

2 E 18 1

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全5頁)

(21)出願番号

特願2000-16659(P2000-16659)

(22)出願日

平成12年1月26日(2000.1.26)

(71)出願人 000132895

株式会社タカイシ

東京都荒川区東日暮里4丁目31番2号

(72)発明者 増田 章三

東京都荒川区東日暮里4丁目31番2号 株式会社タカイシ内

(74)代理人 100066784

弁理士 中川 周吉 (外1名)

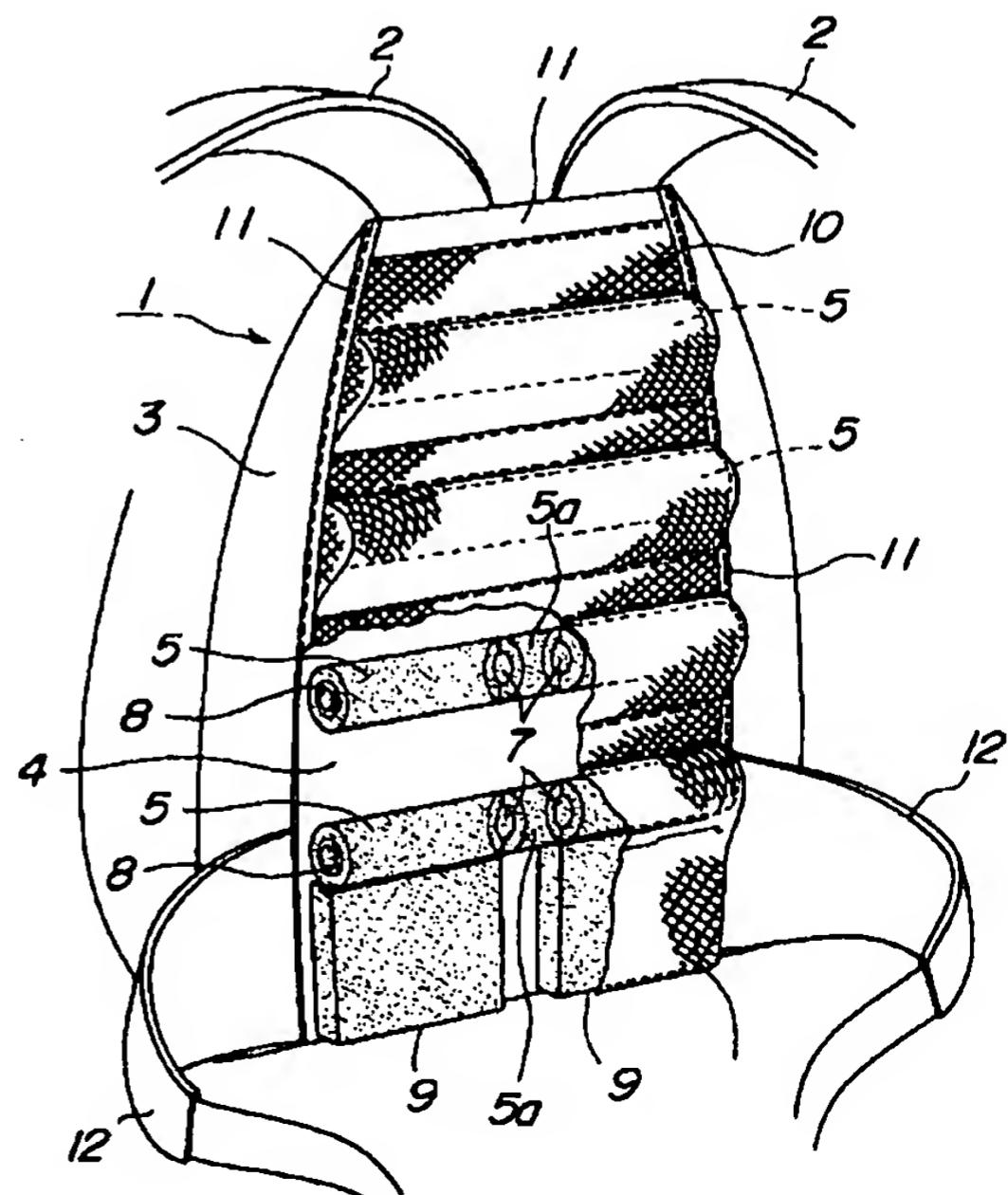
Fターム(参考) 2E181 BA04 BB04 BC01 BD01

(54)【発明の名称】 背負かばん

(57)【要約】

【課題】リックサック等の背負かばんに於いて、これを背負った際に、背中にかばんを安定させることができ、更に通気性を良くして背中がむれないようにした背負かばんを目的としている。

【解決手段】中間部外周壁に通気口7が穿設された中芯に貫通孔6を有する複数の弾性中空パイプ5をリックサック1の背面3に設けられた剛性を有する背板4に取付けると共に、並列された最下段の弾性中空パイプ5の下方に弾性腰当パット9を設けて構成した背負かばんの構造である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】リックサック、ナップザック等の背負かばんに於いて、中間部外周壁に通気口が穿設された複数の弾性中空パイプを背面に並列して設けて構成したことを特徴とした背負かばん。

【請求項2】前記複数の弾性中空パイプをかばんの背面に設けられた剛性を有する背板に取付けると共に、該弾性中間パイプのほぼ中央部に相互に所定の間隔を保って一対の通気口を設けて構成したことを特徴とした請求項1の背負かばん。

【請求項3】前記弾性中空パイプ内に補強中空パイプを插入して構成したことを特徴とした請求項1或いは請求項2の背負かばん。

【請求項4】背面に並列された最下段の弾性中空パイプの下方に弾性腰当パットを設けて構成したことを特徴とした請求項1乃至請求項3の背負かばん。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はリックサック、ナップザック等の背負かばんに係り、特に背面に複数の弾性中空パイプを設けて構成した背負かばんに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、背負かばんを背負って使用した際に、かばんの背面が人の背中に密着されるので、通気性がなく、背中がむれる等の問題があった。

【0003】従って、これ等の問題を解決するために、例えばドイツ特許(DE)19605207号明細書、或いは実開平3-42221号公報等に示す如く、かばんの背面に所定の間隙を保って通気性を有するネットパネルを設け、これによってかばんを背負った際に、かばんが人の背中に密着せずに通気性を良くした構造のものが開発され、実用化されている。

【0004】また、前述のように、通気性の問題とは全く関係なく、かばんを背中に背負った際に、かばんが人の背中に安定した状態で落ち着くようにした背負かばんの技術としては、例えば実開昭53-55314号公報、同昭54-18311号、同昭54-87905号等が知られている。

【0005】前述の公知技術は、背負かばんの背面の全面に多数の小さな突起を突設した構造のかばん、或いは背面の両側に帯状の背当突条フレームを突設した構造のかばんである。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】前述のドイツ特許19605207号明細書等に示す如き通気性を有するネットパネルをかばんの背面に所定の間隙を保って設けて構成したかばんは、通気性の点では優れているが、かばんと人の背中との間にネットパネルが介在されるので、かばんが人の背中に安定した状態で接触せず、かばんを背

負った際に不安定となり、このために長時間使用していると疲れる等の問題があった。

【0007】また、後者の実開昭53-55314号公報等に示す技術は、かばんの背面に多数の突起を突設したり、或いは背当突条フレームをかばんの背面に突設して構成したので、かばんを背負った際には、かばんが背中に安定した状態で接触するが、通気性が改善されずに背中がむれる等の問題があった。

【0008】本件特許出願人は、前述の従来の問題点を改善するために、通気性を有する帯状背当突条片を背面の両側に設けて構成した背負かばんを開発し、既に実用新案で出願をしている(実願平11-9380号)。

【0009】しかるに、前述の本件特許出願人が開発した実用新案の技術のように、通気性を有する帯状背当突条片を背面に設けて構成した場合にも、かばんの背面の中央部の通気性が充分でなく、むれる等の問題が弱冠残っている。

【0010】本発明はこれ等の問題点に鑑み開発された全く新しい技術であって、特に中間部外周壁に通気口が穿設された複数の弾性中空パイプを背負かばんの背面に並列して設けることによって、背面の中央部に外気を送ることが出来るようにした全く新しい背負かばんの技術を提供するものである。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明に係る背負かばんは、前述の従来の問題点を根本的に改善した技術であって、その第1発明の要旨は、リックサック、ナップザック等の背負かばんに於いて、中間部外周壁に通気口が穿設された複数の弾性中空パイプを背面に並列して設けて構成したことを特徴とした背負かばんである。

【0012】前述の第1発明に於いては、中間部外周壁に通気口が穿設された複数の弾性中空パイプを背面に並列して設けて構成したので、弾性中空パイプの相互間に通気が可能な巾広の溝状の隙間を形成することが出来る。さらに該弾性中空パイプの両側から内部に吸入した外気を該通気口より噴出して通気することが出来る。

【0013】また、弾性中空パイプは所定の弾力性を有するので、背負かばんを背負った者が歩く度にその振動で伸縮し、この伸縮作用で弾性中空パイプ内に外気を吸入したり或いは噴出して、背負かばんの背面と背負った者との間に外気をスムーズに送ることが出来る。

【0014】本発明の第2発明の要旨は、前記複数の弾性中空パイプをかばんの背面に設けられた剛性を有する背板に取付けると共に、該弾性中間パイプのほぼ中央部に相互に所定の間隔を保って一対の通気口を設けて構成したことを特徴とした第1発明の背負かばんである。

【0015】前述の第2発明に於いては、複数の弾性中空パイプをかばんの背面の剛性を有する背板に取付けて構成したので、弾性中空パイプを背面に安定した状態で取付けて固定することが出来る。また、かばんの使用時

に、前記複数の弾性中空パイプが不必要に湾曲することを防止出来る。

【0016】また、第2発明に於いては、前記弾性中空パイプのほぼ中央部に相互に所定の間隔を保って一対の通気口を設けたので、かばんを背負った時に背骨に当接される弾性中空パイプのほぼ中央部の弾力性を弱めることが出来、これによってかばんを背負った際の感触を向上せしめることが出来る。

【0017】本発明の第3発明の要旨は、前記弾性中空パイプ内に補強中空パイプを挿入して構成したことを特徴とした第1発明或いは第2発明の背負かばんである。

【0018】前述の第3発明に於いては、弾性中空パイプ内に補強中空パイプを挿入したので、かばんを長年使用した場合にも、弾性中空パイプが弾力性を失ったり、扁平状に押しつぶされたりすることを防止出来る。

【0019】本発明の第4発明の要旨は、背面に並列された最下段の弾性中空パイプの下方に弹性腰当パットを設けて構成したことを特徴とした第1発明乃至第3発明の背負かばんである。

【0020】前述の第4発明に於いては、背面に並列された最下段の弾性中空パイプの下方に弹性腰当パットを設けて構成したので、かばんの下部の弹性腰当パットを背負った者の腰部に当接し、かばんを安定させることが出来る。かつ背面に並列され最下段の弾性中空パイプが、背中に強く当接されることを防止し、違和感が生じることを防止出来る。

【0021】

【発明の実施の形態】図により本発明に係る背負かばんの一実施例を具体的に説明すると、図1は本発明に係る背負かばんの要部の一部切欠斜視説明図、図2は図1の背負かばんの全体を示す表側の斜視図、図3は図1の背負かばんの背面の正面図、図4は図1の背負かばんの要部の構成部品及びその組立状態を示す斜視説明図である。

【0022】図1乃至図4に於いて、1はリックサックであって、その背部には背負バンド2が設けられている。該リックサック1の背面3にはそのほぼ全面に剛性を持った合成樹脂製の背板4が設けられている。この背板4は軽く剛性を有しあつ着が可能なビニール板〔例えばベルボレンシート板(登録商標)〕が特に有効である。

【0023】5は弾性中空パイプであって、発泡ウレタン等の発泡樹脂材或いはゴム材等で形成され、その中芯部には貫通孔6が設けられている。かつこの弾性中空パイプ5のほぼ中央部の外周壁には所定の間隔を持って一対の通気口7が穿設され、貫通孔6内の空気をこれ等の通気口7より排出し得るように構成されている。

【0024】前述の一対の通気口7の相互間隔は、必要に応じて決めることが出来る。両者の相互間隔をより小さくすることによって、これ等の通気口7によって囲ま

れた中心部5aの弾力性を弱めることが出来る。従って、背負かばん1を背負った者の背骨がこの中心部5aに当接された際には、この中心部5aは容易に収縮することが出来るよう構成されている。

【0025】前述のような構造を有する4本の弾性中空パイプ5は、所定の間隔を保って前記背板4の外面の上下方向に平行に並列されて取付固定されている。8は補強中空パイプであって、その外径は弾性中空パイプ5の貫通孔6の内径とほぼ等しい径を有している。この補強中空パイプ8は弾力性を有するゴムパイプ等より形成されている。

【0026】前記補強中空パイプ8は比較的短い寸法のものが使用され、1本の弾性中空パイプ5に対して2個の補強中空パイプ8が用いられている。かつこれ等の補強中空パイプ8は弾性中空パイプ5の両端部の貫通孔6より夫々挿入されている。前記弾性中空パイプ5の中心部5aの貫通孔6内には補強中空パイプが挿入されないように構成されており、これによって中心部5aの柔軟性を阻害しないように配慮されている。

【0027】図中9は腰当パットであって、発泡ウレタン等の発泡樹脂材或いはゴム材等で形成されている。図に示すように、2個の腰当パット9は、背板4の最下段に並列されている弾性中空パイプ5の下方に、左右に並列されて背板4に取付けられている。

【0028】前述のように、背板4に弾性中空パイプ5及び腰当パット9を取付固定するに当たっては、特に図1、図3及び図4に示す如く、予め弾性中空パイプ5及び腰当パット9を両面粘着テープ等を介して背板4上に仮着しておき、その後でメッシュ布10をこれ等の弾性中空パイプ5及び腰当パット9に被覆し、メッシュ布10の所定部分を背板4に接着することによって構成することが出来る。

【0029】或いは、予めメッシュ布10の所定部分を背板4に接着することによって、メッシュ布10と背板4との間に袋状空隙を形成し、この袋状空隙内の側方より弾性中空パイプ5或いは腰当パット9を挿入し、更にメッシュ布10の必要個所を背板4に接着することによって、これ等の弾性中空パイプ5或いは腰当パット9を背板4に固定することが出来る。前記メッシュ布10と背板4の外周縁には帶状の縁紐11が被服接着されている。図中12は背負かばん1の背面3の両部両側に取付けられた腰バンドである。

【0030】本発明に於いては、中間部外周壁に通気口7が穿設された複数の弾性中空パイプ5を背負かばん1の背面3に並列して設けたので、弾性中空パイプ5の相互間に通気が可能な巾広の溝状の隙間を形成することが出来る。さらにこの弾性中空パイプ5を介して背面3に外気を送気して、背面3の通気性を良くすることが出来る。

【0031】特に、一対の通気口7で囲まれた弾性中空

5

パイプの中心部5aの弾力性を弱めることが出来、これによって背負った者の背骨に当接される部分を柔らかにして、背骨に違和感が生じないようにすることが出来る。

【0032】

【発明の効果】本発明に係る背負かばんは、中間部外周壁に通気口が穿設された複数の弹性中空パイプを背面に並列して構成したので、弹性中空パイプの相互間に通気が可能な巾広の溝状の隙間を形成することが出来る。さらに該弹性中空パイプの両側から内部に吸入した外気を該通気口より噴出して通氣することが出来る。従つて、弹性中空パイプ相互間の隙間とこの弹性中空パイプの貫通孔の両方から空気を背面に送気することが出来る。

【0033】かつ、弹性中空パイプは所定の弾力性を有するので、背負かばんを背負った者が歩く度にその振動で伸縮、この伸縮作用で弹性中空パイプ内に外気を吸入したり或いは噴出して、背負かばんの背面と背負った者との間に外気をスムーズに送ることが出来る。

【0034】また、複数の弹性中空パイプをかばんの背面の剛性を有する背板に取付けて構成した場合には、弹性中空パイプを背面に安定した状態で取付けて固定することが出来る。また、かばんの使用時に、前記複数の弹性中空パイプが不必要に湾曲することを防止出来る。

【0035】前記弹性中空パイプのほぼ中央部に相互に所定の間隔を保って一対の通気口を設けた場合には、かばんを背負った時に背骨に当接される弹性中空パイプのほぼ中央部に弾力性を弱めることが出来、これによってかばんを背負った際の感触を向上せしめることが出来る。

【0036】弹性中空パイプ内に補強中空パイプを挿入した場合には、かばんを長年使用した場合にも、弹性中

空パイプが弾力性を失ったり、扁平状に押しつぶされたりすることを防止出来る。

【0037】さらに、背面に並列された最下段の弹性中空パイプの下方に弹性腰当パットを設けて構成した場合には、かばんの株式会社の弹性腰当パットを背負った者の腰部に当接し、かばんを安定させることが出来る。かつ背面に並列され最下段の弹性中空パイプが、背中に強く当接されることを防止し、違和感が生じることを防止出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る背負かばんの要部の一部切欠斜視説明図である。

【図2】図1の背負かばんの全体を示す表側の斜視図である。

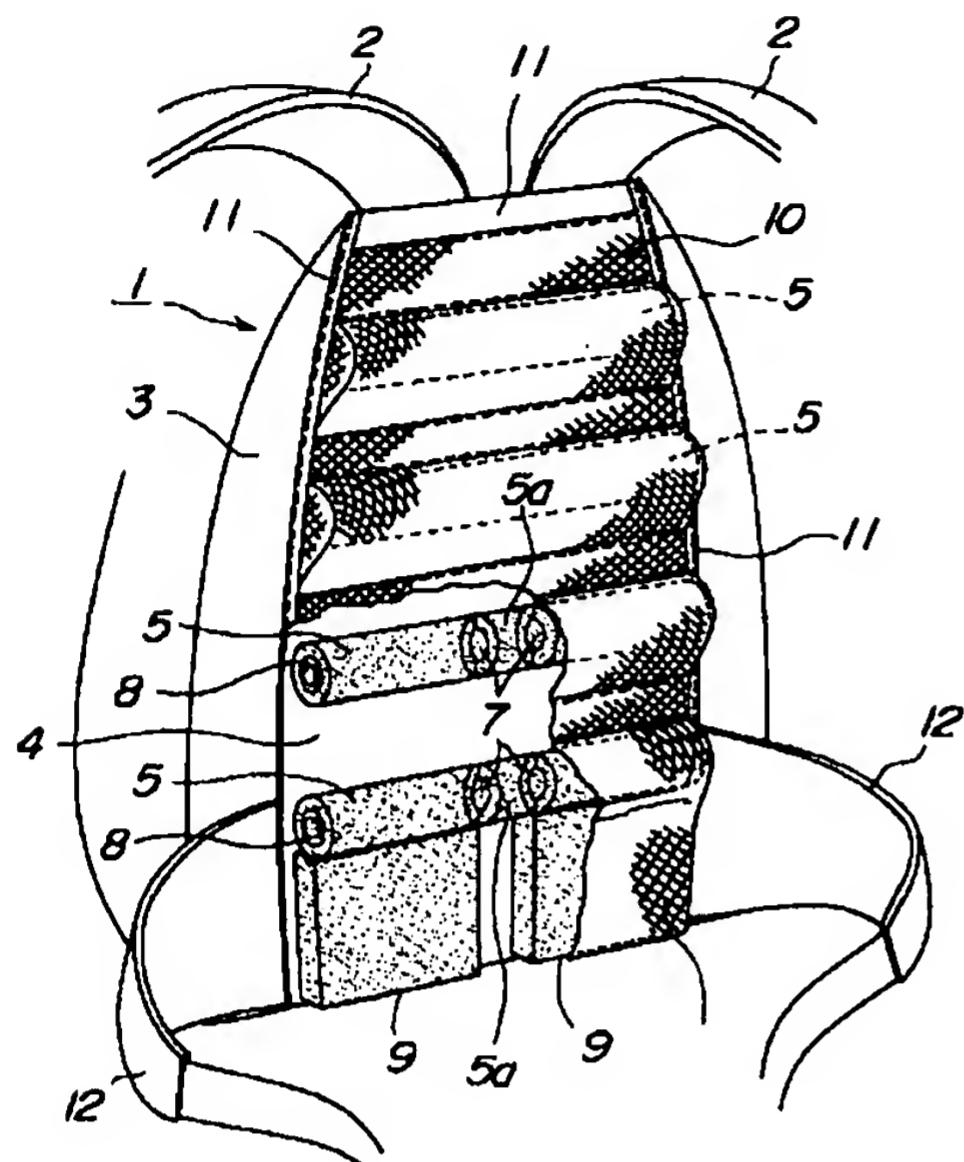
【図3】図1の背負かばんの背面の正面図である。

【図4】図1の背負かばんの要部の構成部品及びその組立状態を示す斜視説明図である。

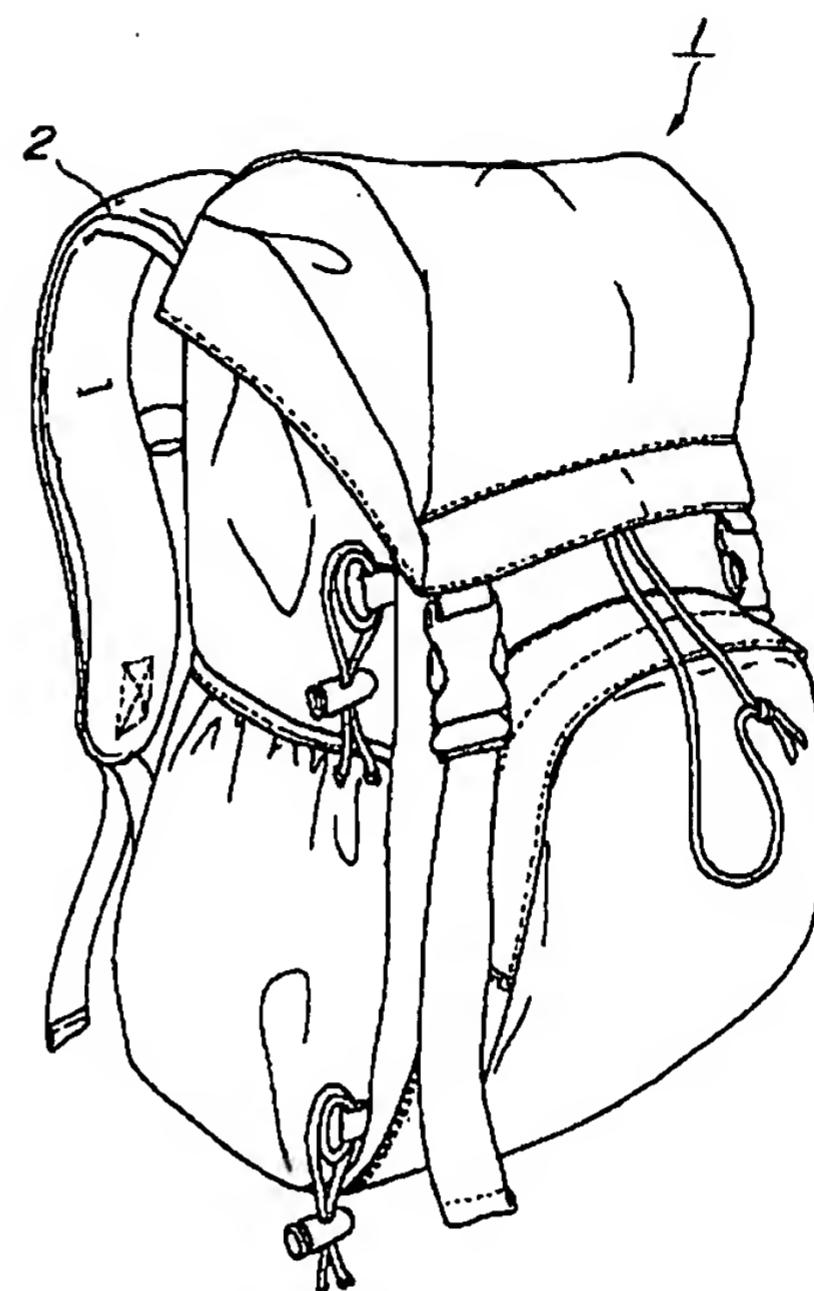
【符号の説明】

1	リックサック
2	背負バンド
3	背面
4	背板
5	弹性中空パイプ
5a	中心部
6	貫通孔
7	通気口
8	補強中空パイプ
9	腰当パット
10	メッシュ布
30	縁紐
11	腰バンド
12	

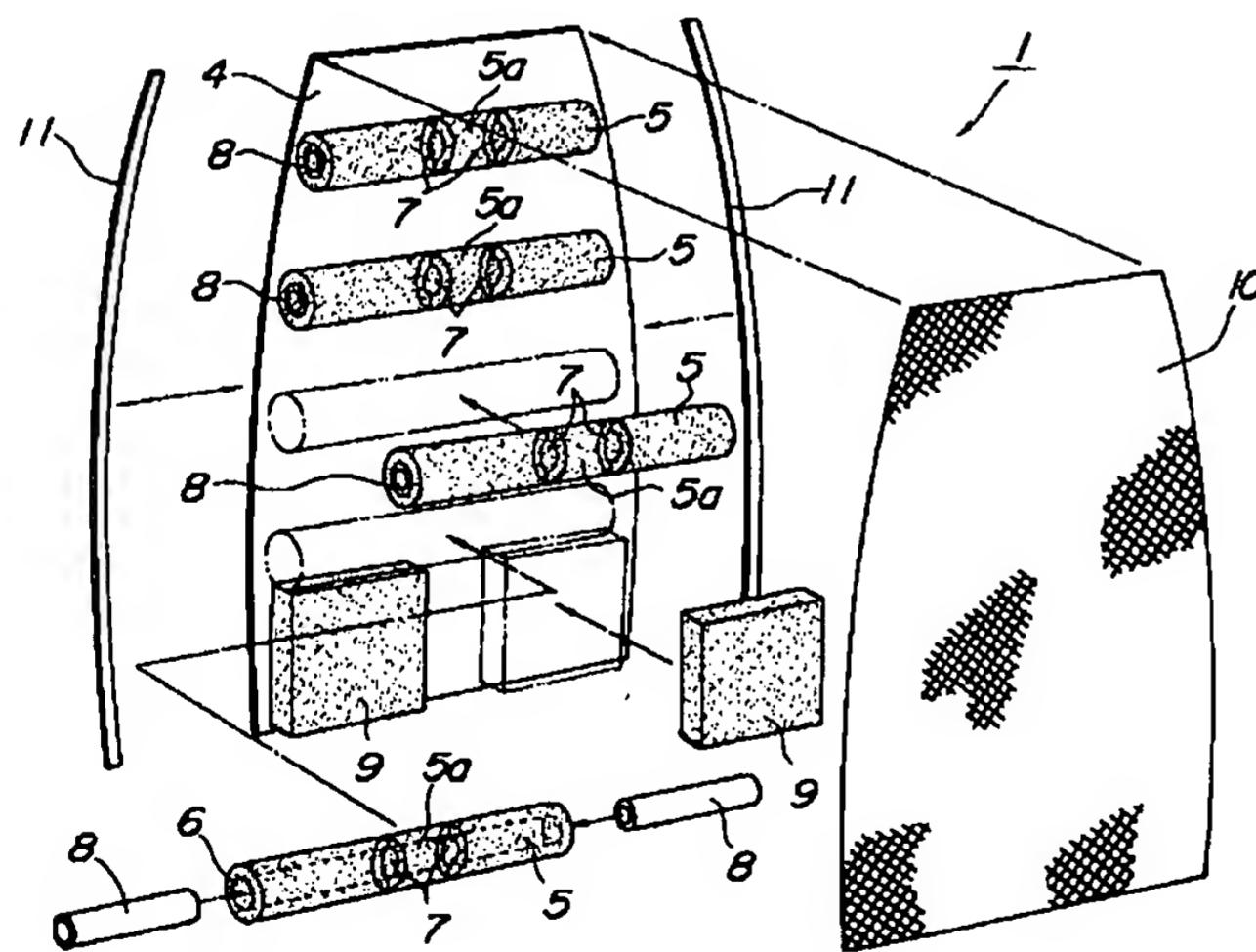
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

